「所有」と「存在」の意味を表す中国語の“有”(yǒu)構文
—場所表現[1]を使用するか否かの観点から—

趙　萍

キーワード：“有”構文、場所表現、偶有的随伴性、必然的随伴性

要旨

中国語の“有”構文には、“有”の後ろに場所表現が必須なものと使用できないもの、どちらでもよいものがある。本研究は、その場所表現の有無と、従来言われてきた“有”構文の意味との関連を考察する。中国語母語話者に対する容認性判定調査を行った結果、３つのタイプが導き出された。“有”構文を「X（＋場所表現）＋“有”＋Y」という形で表すと、X に場所表現が必須であるタイプ１は、Y の特徴は「偶有的随伴性」で、「＜存在場所（＝X＋場所表現）＞＋“有”＋＜偶有的存在物＞」のように定式化できる。これは従来の「存在」用法に相当する。場所表現を伴えないタイプ２の Y は、「必然的随伴性」という特徴をもち、「＜主体（X）＞＋“有”＋＜必然的随伴物＞」のように定式化される。これは従来の「所有」用法に相当する。場所表現を伴っても伴わなくてもよいタイプ３は、さらに２つのタイプに分かれて、うち前者はタイプ１のように解釈できる文脈とタイプ２のように解釈できる文脈がともに考えられるケースで、後者はそのどちらとも異なり「関係」を表す用法であると結論された。

1. はじめに

中国語には、次のような“有”を用いる構文がある。

(1) 桌子(Zhuōzi) 有(yǒu) 四(sì) 条(tiáo) 腿(tuǐ)。(机には脚が４本ある)

(2) 桌子(Zhuōzi) 上(shang)[2] 有(yǒu) 一(yì) 本(běn) 书(shū)。(机の上に本が１冊ある)

“有”という動詞は、“有”の前に位置する名詞的成分と“有”の後ろに位置する名詞的成分の意味関係によって、いくつかの用法に分類するのが、従来の一般的な分析方

法であった。そしてその代表的なものが「所有」と「存在」である。

よく注意してみると、(1)と(2)は同じ“有”構文ではあるが、例文(2)では「桌子（机）」の後ろに場所表現の“上”が付いているのに対して、例文(1)では“上”が付いていないことがわかる。場所表現が付いている場合、主語が副詞句のように見えるという統語的特徴も相まって、中国語を母語としない学習者にとって、場所表現を伴う“有”構文と伴わない“有”構文の意味的相違や場所表現の使用条件は、習得上の困難点になることが予測される。本研究の動機となった点である。

(1)と(2)のほかにも、場所表現を付けられないものと付けなければならないものがある。ここでいくつか例を挙げる（容認性判断は筆者自身のものである）。

【場所表現を入れると不適切や不適格な文になる例】

(3) a.　Qìchē yǒu sì ge lúnzi
汽车 有 四 个 轮子。（車にはタイヤが４つある）

b. #(3) Qìchē xia yǒu sì ge lúnzi
汽车 下 有 四 个 轮子。

(4) a.　Zhè zhǒng huā yǒu zhǒng tèbié de xiāngwèir
这 种 花 有 种 特别 的 香味儿。

（この花には特別な香りがある）

b. *(4) Zhè zhǒng huā li yǒu zhǒng tèbié de xiāngwèir
这 种 花 里 有 种 特别 的 香味儿。

【場所表現がないと不適格な文になる例】

(5) a. * Jiē yǒu hěn duō shāngdiàn
街 有 很 多 商店。

b.　Jiē shang yǒu hěn duō shāngdiàn
街 上 有 很 多 商店。（町にお店がたくさんある）

(6) a. * Dì yǒu yì duī lājī
地 有 一 堆 垃圾。

b.　Dì shang yǒu yì duī lājī
地 上 有 一 堆 垃圾。（地面にごみがある）

本研究では、中国語母語話者に対する調査を通じて、場所表現が付くか否かの条件を探りながら、従来指摘されてきた“有”の「所有」と「存在」の２つの代表的な意味と

関連があるか、あるとしたらどのように関連しているのか明らかにすることを試みる。

2. 先行研究

中国語の動詞の“有”の意味を分類する研究は数多くなされてきた。

陸(1992)は、日本語の「ある」と中国語の“有”の異同を以下の表に要約している。

	動的な表現		静的な表現							
	出来事の発生	状態の出現と発生	物理的存在					所有・所属的存在		部分集合または種類の存在
			存在	所在		有情物	無情物	所有者は所有されるものと		
				位置	場所			直接的関係ある	ない	
ある	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○
有	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○

村松(1999)は、“有”の意味を細かく分類するのではなく、discourseにおいて、話し手はいかなる場合にいかなる意図をもって“有”という表現を用いるのか、という観点に立った分析を試みた。結論として、“有”という動詞の表現は、discourseにおいて、話し手と聞き手が情報や意志を伝達していく過程で、最も基本的な共通項でなければならない「実在」を、話し手と聞き手が共有するための、あるいは共有していることを確認するための表現であると述べている。

今までの研究で、“有”の意味はある程度明確に分類されていることがわかる。しかし、“有”がもっているいくつかの意味が、意味の違いだけなのか、構文の形式上の相違とも関係するのかに言及している研究はほとんどない。

その中で、“有”構文の意味の違い、すなわち「存在」なのかそれとも「所有」なのかは、“在[5]”が付けられるか否かという構文の形式上の相違と関連しているという見方がある。阿部(1990)は、中国語では「場所的存在」と「所有」が同じ“有”を用いる他動詞構文で表され、「場所的存在」の表現は主語の前に前置詞の“在”を付けることができるのに対して、「所有」はできないと述べている。例(7)(8)を比較したい。

(7) a. 桌子(Zhuōzi) 上(shang) 有(yǒu) 一(yì) 本(běn) 书(shū)。(机の上に本が１冊ある)

b. 在(Zài) 桌子(zhuōzi) 上(shang) 有(yǒu) 一(yì) 本(běn) 书(shū)。

(8) a.　Wǒ yǒu qìchē
我 有 汽车。(私は車がある)

b. * Zài wǒ yǒu qìchē
在 我 有 汽车。

存在を表す「机の上に本が1冊ある」に関して、例(7)のbのように「桌子（机）」の前に前置詞の「在」を付けることができる。しかし一方、「所有」を表す「私には車がある」は、「在」が入っている例(8)のbは、不適格な表現となる。以上のことから、例文(7)と(8)において、“在”が主語の前に付けられるかどうかという点では、2つの文は確かに異なっている。

しかし一方、阿部(1990)にも、「L（存在場所）＋有＋P（存在主体）」という語順の“有”構文は、普通は存在場所の前に前置詞の“在”が付かない（省略されていると考えてもよい）と述べられている。従って、存在場所の前に付かない“在”が付けられるかどうかによって、「存在」と「所有」を区別するのは適切ではないと考える。

本研究では、例文(7)と(8)にも見られる、「桌子（机）」の後ろに場所表現の“上”が用いられているのに対して、「我（私）」の後ろに場所表現が用いられていないところに着目し、“有”の前後に来る名詞句の意味的関係が影響するのではないかと考え、場所表現の有無に関する容認性判断調査を実施し検証することにした。場所表現が付いている“有”構文と付いていない“有”構文の意味的相違や、場所表現の使用条件を解明することは、中国語教育現場に示唆を与え、中国語を母語としない学習者に対する“有”構文のより効果的な指導法を探る上で重要な手がかりになると考えられる。

3. 容認性判断調査

ここで、本研究で対象とする“有”構文を次のように規定しておく。“有”構文「X（＋場所表現）＋“有”＋Y」において、“有”は文の主動詞であり、XとYの間には、存在者YがXにおいて存在するという意味的関係が成り立つ。形式的に類似する構文として、Yが“変化”や“発展”といった動詞的要素であるものがあるが（例えば、“最近中国有很大变化。”［最近中国は大きく変化した］）、先行研究においてもこのYは動詞と分析されており（刘ほか 1983、陸 1992）、本研究の対象には含めないこととする。また、YがXの種類（部分集合で、しばしばY1, Y2, Y3 のように並列される）を表すものがあるが（例えば、“今天参加座谈会的人有工人、学生、干部、教师等。”［今日座談会に参加する人は、労働者、学生、管理職、教師などだ］）、この場合、究極的にX=Yの関係にあることになるので、これも対象から外すこととする。（これらは各々、先の陸 1992 の表にあった「状態の出現と発生」と「部分集合または種類の存在」のカ

テゴリーに一致する。)

本研究では、“有”を用いる文をもとにし、場所表現を入れるものと入れないものの2パターンの短文（合計72文）を作成し、その文が適切かどうかの判定を求める容認性判断調査を実施した（適切であると判断した場合に○、不適切であると判断した場合に×、どちらともいえない場合に△)。

調査は、2010年7月に、中国語母語話者（大学院生）14名に協力してもらった。出身地による違いが出る可能性はないと言いきれないため、出身地もあわせて尋ねた。

4. 結果と考察

“有”構文を「X（＋場所表現）＋有＋Y」という形で表すことにすると、調査の結果、Xに場所表現が必須であるタイプと、場所表現を伴えないタイプと、伴っても伴わなくてもよいタイプの、3つのタイプが導き出された。

4.1 タイプ1：偶有的随伴性

タイプ1の“有”構文は、Xに場所表現が必須であるタイプである。

調査の結果をまとめた表1を見てみると、例えば、「机の上に本が1冊ある」、「壁に絵が1枚かかっている」、「電車の中に人がたくさん乗っている」など、ここで取り上げられている文例に関しては、中国語母語話者の判断によると、Xの後ろに場所表現が必須であることがわかった。例えば、

表1－2：墙(Qiáng)　上(shang)　有(yǒu)　一(yì)　幅(fú)　画(huà)。(壁に絵が1枚かかっている)

表1－3：电车(Diànchē)　里(li)　有(yǒu)　很(hěn)　多(duō)　人(rén)。(電車に人がたくさん乗っている)

壁と絵、電車と乗客のような、XとYの関係については、次のような共通性を認めることができる。XはYが存在するための場所を提供するが、Y（例えば、壁にかかった絵、電車に乗った人）は、XがXとして成立するための不可欠の構成要素というわけでなく、状況次第ではそこからなくなることもあり得る。これは典型的に、従来の「存在」用法に相当すると考える。本研究では、Yのこのような特徴を「偶有的随伴性」と呼ぶことにする。このタイプは次のように定式化できる。

＜存在場所　(＝X＋場所表現)＞ ＋“有”＋＜偶有的存在物＞

表１　場所表現が必須である“有”構文

	“有” 構 文	日本語訳	○	×	△
1	桌子有一本书。		0	14	0
	桌子*上*有一本书。	机の上に本が１冊ある。	14	0	0
2	墙有一幅画。		1	12	1
	墙*上*有一幅画。	壁に絵が１枚かかっている。	14	0	0
3	电车有很多人。		3	8	3
	电车*里*有很多人。	電車に人がたくさん乗っている。	14	0	0
4	街有很多商店。		1	12	1
	街*上*有很多商店。	町にお店がたくさんある。	13	0	1
5	地有一堆垃圾。		0	14	0
	地*上*有一堆垃圾。	地面にゴミがある。	14	0	0
6	我的心只有你。		5	8	1
	我的心*里*只有你。	私の心にはあなたしかいない。	14	0	0
7	她心好像有很多秘密。		0	12	2
	她心*里*好像有很多秘密。	彼女の心には秘密がたくさんある。	14	0	0

母語話者の判定結果が明確に出たものが多い一方、判定に揺れのあった文例もいくつか見られた。表１－６の「私の心にはあなたしかいない」では、場所表現を伴った「我的心里只有你（Wǒ de xīn li zhǐ yǒu nǐ）」は全員○と判断しているが、「我的心只有你（Wǒ de xīn zhǐ yǒu nǐ）」でも○が５人、△が１人、×が８人いた。表１のタイプは、存在場所であるＸにとってＹは偶有的存在物であるが、この例に関して、心にある思いで、偶有的ではなく、いわば運命的、宿命的にそうなっていると解釈する余地があり、判定には揺れが見られたと考える。

また、表１－３の「電車に人がたくさん乗っている」では、場所表現を伴った「电车里有很多人（Diànchē li yǒu hěn duō rén）」は全員○と判断しているが、「电车有很多人（Diànchē yǒu hěn duō rén）」でも○が３

人、△が３人、×が８人いた。この例に関して、「乗客はいつも多い」というのはある特定の電車の特徴であるととらえた場合、これは偶有的ではなく、いわば属性的にそうなっていると解釈する余地があるため、このような判定となったと考える。

一見例外的な文例もこのように説明できることから、上のような定式化が基本的に支持されると考える。

4.2 タイプ２：必然的随伴性

表２のタイプの“有”構文は、存在場所の後ろに“上”、“下”、“里”、“那儿（那里）”などの場所表現を付けると中国語として不適格になる。例えば、

表２－２：
Qìchē yǒu sì ge lúnzǐ
汽车 有 四 个 轮子。（車にはタイヤが４つある）

Qìchē xià yǒu sì ge lúnzǐ
＊汽车 下 有 四 个 轮子。

表２－４：
Zhè zhǒng huā yǒu zhǒng tèbié de xiāngwèi r
这 种 花 有 种 特别 的 香 味儿。

（この花には特別な香りがある）

Zhè zhǒng huā li yǒu zhǒng tèbié de xiāngwèi r
＊这 种 花 里 有 种 特别 的 香 味儿。

表２－６：
Nà ge rén yǒu yīnyuè cáihuá
那 个 人 有 音乐 才华。（あの人には音楽の才能がある）

Nà ge rén nàr yǒu yīnyuè cáihuá
＊那 个 人 那儿 有 音乐 才华。

表２－７：
Tā yǒu liǎng ge mèimei yí ge dìdi
他 有 两 个 妹妹，一 个 弟弟。（彼には妹が２人、弟が１人いる）

Tā nàli yǒu liǎng ge mèimei yí ge dìdi
＊他 那里 有 两 个 妹妹，一 个 弟弟。

ここでもＸとＹの関係について考えてみる。Ｙは、例えば、車の４つのタイヤ、花の香り、人の才能、町の歴史などである。そこに見える共通性として、ＹはＸがＸとして成立するための不可欠な性質であることがわかる。

それらに共通する特徴を「必然的随伴性」と呼ぶことにする。このタイプは典型的に、従来の「所有」用法に相当する。

このタイプは次のように定式化される。

＜主体（X）＞＋“有”＋＜必然的随伴物＞

表２　場所表現を伴えない“有”構文

	“有”　構　文	日本語訳	○	×	△
1	桌子有四条腿。	机には脚が４本ある。	13	0	1
	桌子***下***有四条腿。		2	12	0
2	汽车有四个轮子。	車にはタイヤが４つある。	14	0	0
	汽车***下***有四个轮子。		3	10	1
3	北京有许多古建筑。	北京には古い建物がたくさんある。	14	0	0
	北京***里***有许多古建筑。		5	9	0
4	这种花有种特别的香味儿。	この花には特別な香りがある。	14	0	0
	这种花***里***有种特别的香味儿。		2	12	0
5	她母亲身体有病。	彼女のお母さんには持病がある。	14	0	0
	她母亲身体***上***有病。		4	10	0
6	那个人有音乐才华。	あの人には音楽の才能がある。	14	0	0
	那个人***那儿***有音乐才华。		0	14	0
7	他有两个妹妹，一个弟弟。	彼には妹が２人、弟が１人いる。	14	0	0
	他***那里***有两个妹妹，一个弟弟。		0	12	2
8	你还有我呢，怕什么？	あなたには私がいる、何を怖がっているの？	14	0	0
	你***那儿***还有我呢，怕什么？		1	12	1
9	作为医生的他还有一份其他的工作。	医者としての彼にはもう１つほかの仕事がある。	14	0	0
	作为医生的他***那里***还有一份其他的工作。		2	12	0
10	那个有钱人有三辆汽车。	あの金持ちは車が３台ある。	14	0	0
	那个有钱人***那里***有三辆汽车。		3	7	4

ここでも判断に揺れの見られる文例がいくつか認められる。

まず、表２－３の「北京には古い建物がたくさんある」では、場所表現を伴わない「北京有很多古建筑」は全員○と判断しているが、場所表現を伴った「北京里有很多古建筑」にも○が５人、×が９人いた。古い建物は北京の必然的随伴物ととらえる見方と、北京には古い建物がたくさんあるという偶有的なとらえ方もできるため、判定には揺れが見られたのではないかと考える。

表２－５の「彼女のお母さんには持病がある」では、場所表現が付いていない「她母亲身体有病」は全員○と判断しているが、場所表現が付いている「她母亲身体上有病」にも、○が４人、×が 10 人いた。「病気持ち」という感じであれば必然的で、病気が治るものであると考えれば偶有的であると解釈する余地があり、このような判定となったと考える。

表２－10 の「あの金持ちは車が３台ある」では、場所表現を伴わない「那个有钱人有三辆汽车」は全員○と判断しているが、場所表現を伴った「那个有钱人那里有三辆汽车」にも、○が３人、△が４人、×が７人いた。３台の車は金持ちの持ち物であるというとらえ方だけでなく、あの金持ちの家に車が３台置いているという偶有的なとらえ方もできるため、判定に揺れが見られたと考える。

これらによって例外的な文例が説明できることから、ここでも先の定式化が支持されると考える。

4.3 タイプ３：上記に収まらないもの

以上に加え、調査協力者 14 名の過半数、つまり８人以上が場所表現の入っている表現と入っていない表現の両方を適切であると判定した文例が 14 例あった。このタイプをタイプ３と呼ぶことにする。しかし、このタイプの共通性を探っていくと、全体が一枚岩的なのではなく、さらに２つのタイプに分かれるように思われた。以下、その根拠について述べた後で、各々のタイプを考察する

表３の10例については、タイプ１のように解釈できる文脈とタイプ２のように解釈できる文脈がともに考えられるのが共通の特徴であると考えられた。それと異なって、表４の４例は、いずれもＸが複数の人となっていて、Ｘの後ろに「之间（間）」を用いても用いなくてもよいことがわかる。本研究では、前者の表３のタイプをタイプ3A、後者の表４のタイプをタイプ3Bと呼ぶことにする。

表３　場所表現を用いても用いなくてもよい“有”構文

	“有”　構　文	日本語訳	○	×	△
1	我家有两台电视。	私の家にテレビが２台ある。	14	0	0
	我家***里***有两台电视。		14	0	0
2	这辆车有四个车灯。	この車にはライトが４つある。	14	0	0
	这辆车***前面***有四个车灯。		12	1	1
3	二楼的教室有很多桌子。	二階の教室に机がたくさんある。	8	3	3
	二楼的教室***里***有很多桌子。		13	1	0
4	今天我有客人。	今日は私に来客がある。	14	0	0
	今天我***那儿***有客人。		14	0	0
5	那个教授有两个助手。	あの教授には助手が２人いる。	14	0	0
	那个教授***那儿***有两个助手。		9	4	1
6	他家有三只猫。	彼の家に猫が３匹いる。	14	0	0
	他家***里***有三只猫。		14	0	0
7	你有零钱吗?	あなたは小銭がある？	14	0	0
	你***那儿***有零钱吗?		14	0	0
8	那个有钱人家有三辆汽车。	あの金持ちの家に車が３台ある。	13	0	1
	那个有钱人家***里***有三辆汽车。		14	0	0
9	这个门有两把锁。	このドアには鎖が２つある。	14	0	0
	这个门***上***有两把锁。		11	2	1
10	那个健身中心有游泳池。	あのジムにはプールがある。	14	0	0
	那个健身中心***里***有游泳池。		10	3	1

まず、タイプ3Aについて、例えば、

表３－３：Er lóu de jiàoshì yǒu hěn duō zhuōzi
二楼的教室有很多桌子。（二階の教室に机がたくさんある）

Er lóu de jiàoshì li yǒu hěn duō zhuōzi
二楼的教室里有很多桌子。

「二階の教室に机がたくさんある」という例において、「二階の教室は収容人数の多い教室だ」という意味で「机がたくさんある」ととらえるのが前者であり、それに対して、「二階の教室に（何かの事情で）机がたくさん置かれている」という意味で「机がたくさんある」ととらえるのが後者である。

先に見たタイプ２の表２－３の「北京には古い建物がたくさんある」も、「二階の教室には机がたくさんある」という例と同様、「北京は古い建物の多い町だ」という意味で「古い建物がたくさんある」ととらえるのがタイプ２のとらえ方で、それに対して、「北京に古い建物がたくさん建てられている」という意味で「古い建物がたくさんある」ともとらえるため、この例文の判定に揺れが見られたと考える。

表３－４の「今日は私に来客がいる」と表３－５の「あの教授には助手が２人いる」の２例は、Ｙがともに人（来客か助手）である。容認性判断調査の結果、場所表現を伴わない「Jīntiān wǒ yǒu kèrén 今天我有客人」と「Nàge jiàoshòu yǒu liǎng gè zhùshǒu 那个教授有两个助手」のいずれにも全員○と判定している。一方、場所表現を伴う例文、「Jīntiān wǒ nàr yǒu kèrén 今天我那儿有客人」には全員○と判定しているが、「Nàge jiàoshòu nàr yǒu liǎng ge zhùshǒu 那个教授那儿有两个助手」には×が４人で、○が９人いた。なぜ判定結果に違いが出たのかを考えてみる。「来客」は、たまたま訪問に来た人で、偶有的存在であり、すなわちタイプ１のように解釈しやすい。それに比べると、「助手」は教授のところで働いている人であるため、偶有的な存在と解釈する余地は「来客」より少なくなると考えられる。

次に、表４のタイプ3Bの“有”構文は、例えば、

表４－３：Wǒmen yǒuxiē wùhuì
我们有些误会。（私たちの間には誤解がある）

Wǒmen zhījiān yǒuxiē wùhuì
我们之间有些误会。

表３と同様、場所表現を伴っても伴わなくても自然な中国語として成立する。「X（＋場所表現）＋“有”＋Y」という形において、タイプ3Bに見える共通性として、Xが複数の人となっていて、Yは「距離」、「わだかまり」、「誤解」、「つながり」のような抽象的なものであり、Xの後ろに「之间（間）」を用いても用いなくてもよいことがわかった。このタイプは今まで論じてきた「存在」「所有」に相当するタイプと異なっており、そこで本研究では、タイプ3Bの用法を「関係」と呼ぶことにしたい。

表４　「関係」を表す“有”構文

	“有”　構　文	日本語訳	○	×	△
1	我和他有很大距离。	私と彼の間には距離がある。	12	1	1
	我和他*之间*有很大距离。		14	0	0
2	他俩有隔阂。	彼ら二人にはわだかまりがある。	14	0	0
	他俩*之间*有隔阂。		14	0	0
3	我们有些误会。	私たちの間には誤解がある。	12	2	0
	我们*之间*有些误会。		14	0	0
4	他和那个人有关系。	彼とあの人とは関係がある。	14	0	0
	他和那个人*之间*有关系。		12	2	0

5. 結論

以上の容認性判断調査の結果から、“有”の意味の違いは、形の違いで裏付けられることが明らかになった。“有”構文を「X（＋場所表現）＋“有”＋Y」という形で表すと、Xに場所表現が必須であるタイプ１は、XはYが存在するための場所を提供し、Yが「偶有的存在物」で、このタイプは従来の「存在」用法に相当する。場所表現を伴えないタイプ２は、Yは主体のXにとって「必然的随伴物」であり、このタイプは従来の「所有」用法に相当する。場所表現を伴っても伴わなくてもよいタイプ３はさらに２つのタイプに分かれ、タイプ3Aは、タイプ１のように解釈できる文脈とタイプ２のように解釈できる文脈がともに考えられるタイプであり、タイプ3Bはこれらとは異なる別のタイプで「関係」を表している。以上の場所表現の有無に関するタイプ１～タイプ３と“有”構文の意味との関係を表に表すと、以下の表５になる。

表５　タイプ１～３と“有”構文の意味との関係

存在	タイプ１	タイプ３Ａ
所有	タイプ２	タイプ３Ａ

関係	タイプ３Ｂ

今後、本研究で明らかになった場所表現の有無による“有”構文の意味的相違と場所表現の使用条件に基づいて、タイプ３についてさらなる検証を行い、「存在」「所有」「関係」と呼ばれることがらの意味を再考したうえで、中国語教育への提言を試みたいと考える。

〔注〕

(1) 本研究では、中国語にある場所を表す指示代詞と方位詞を「場所表現」と呼ぶことにする。指示代詞は“这儿（这里）”と“那儿（那里）”で、方位詞は“上”、“下”、“前”、“后”、“里”、“外”などがある。

(2) 以下、例文の場所表現の部分を網かけにして表す。

(3) 「#」で、「当該の文脈では不適切」であることを表す記号として用いる。

(4) 「*」は、「中国語として文法的に不適格」であることを表す記号として用いる。

(5) “在”は前置詞で、日本語の「に」にあたる。

参考文献

阿部博幸 (1990)「場所的存在の表現をめぐって　日・英・中の比較による‘場所的存在’と‘所有’‘所在’との関係」『日本語と日本文学』13、pp.23-31

相原茂・石田知子・戸沼市子 (1996)『*Why？* にこたえる　はじめての中国語の文法書』同志社

刘月华・潘文娱・故韡 (1983) 『实用现代汉语语法』外語教学与研究出版社、pp.557-559

陸慶和 (1992)「日本語の『ある』と中国語の『有』との異同」関西学院大学『人文論究』41-4、pp.97-103

吕叔湘 (1980)『现代汉语八百词』商务印书馆、pp.434-441

村松恵子 (1999)「現代中国語の“有”の表現」名古屋大学大学院『人文科学研究』18、pp.35-46